

矢巾町まち・ひと・しごと創生総合戦略

令和2年3月

矢 巾 町

【 目 次 】

I. 矢巾町まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定にあたり	……………	P3
1 矢巾町まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定の背景	……………	P3
2 矢巾町まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置づけ	……………	P4
3 矢巾町まち・ひと・しごと創生総合戦略の計画期間	……………	P4
4 矢巾町まち・ひと・しごと創生総合戦略の体系	……………	P5
5 矢巾町まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定・推進体制	…	P5
II. 政策分野別戦略の展開	……………	P6
1 まち分野における戦略の展開	……………	P6
2 ひと分野における戦略の展開	……………	P11
3 しごと分野における戦略の展開	……………	P17
4 横断的な戦略の展開	……………	P26

I. 矢巾町まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定にあたり

1 矢巾町まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定の背景

平成 26 年（2014 年）9 月に制定された「まち・ひと・しごと創生法（平成 26 年（2014 年）法律第 136 号）」に基づき、平成 26 年（2014 年）12 月に、国では令和 42（2060 年）年に 1 億人程度の人口を維持するなどの中長期的な展望を示した「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」を策定するとともに、平成 27 年（2015 年）度からの 5 か年の目標や施策の基本的方向等をまとめた、第 1 期（平成 27 年（2015 年）度から平成 31 年（2019 年）度まで）の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。

国では、この 5 年間で進められてきた施策の検証を行い、優先順位を見極めながら、「継続は力なり」という姿勢を基本にし、地方創生の目指すべき将来や、令和 2 年（2020 年）度を初年度とする今後 5 か年の目標や施策の方向性等を示した「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン（令和元年 12 月 20 日）」と「第 2 期まち・ひと・しごと創生総合戦略（令和元年 12 月 20 日）」が策定されました。

「矢巾町まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下「本戦略」）は、国の長期ビジョン及び総合戦略における基本的な考えと視点を踏まえつつ、本町としての基本目標を設定し、中長期的視点から本町人口ビジョンの実現を目指すための指針として策定するものです。

（参考）「第 2 期まち・ひと・しごと創生総合戦略」における施策の方向性

■第 2 期における施策の方向性

国は、将来にわたって「活力ある地域社会」の実現と、「東京圏への一極集中」の是正を共に目指すため、第 1 期の成果と課題を踏まえて、第 1 期「総合戦略」の政策体系を見直し、以下のとおり、次の 4 つの基本目標と 2 つの横断的な目標の下に取り組むこととしている。

【基本目標 1】

稼ぐ地域をつくとともに、安心して働けるようにする

【基本目標 2】

地方とのつながりを築き、地方への新しいひと流れをつくる

【基本目標 3】

結婚・出産・子育ての希望をかなえる

【基本目標 4】

ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる

【横断的な目標 1】

多様な人材の活躍を推進する

【横断的な目標 2】

新しい時代の流れを力にする

2 矢巾町まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置づけ

本戦略は、令和元年（2019年）度に策定する「第7次矢巾町総合計画後期基本計画」との整合性を図った上で取りまとめたものです。

その中で、まち・ひと・しごとの創生に向けた基本目標に対応する施策・事業を本戦略に基づき重点的に展開するものです。

（参考）「第7次矢巾町総合計画後期基本計画」の概要

「第7次矢巾町総合計画」では、基本理念を『希望と誇りと活力にあふれ 躍動するまち やはば』と定め、町民憲章に掲げる「和といたわりと希望の町」の実現を目指し、本町の将来像を

- | | | |
|---|----------------|--------------------|
| 1 | ひとを豊かに育み見守るまち | “将来を担うひとの創造” |
| 2 | 自然とひとが共生するまち | “将来に誇れるまちの創成” |
| 3 | 持続的な力を蓄え活力あるまち | “将来の活力につながるしごとの創出” |
| 4 | みんなでつくる協働のまち | “将来にわたり躍動する力の創生” |

として定めています。

また、まちづくりの基本理念に基づき、将来像の実現に向けまちづくりの方針を

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1. 健やかな生活を守るまちづくり | 2. 時代を拓き次代につながる人づくり |
| 3. 利便性と発展性を高めるまちづくり | 4. 快適性と安全性を高めるまちづくり |
| 5. 産業の活力を高めるまちづくり | 6. 豊かな生活環境を守るまちづくり |
| 7. 安心と信頼が寄せられる行政経営 | |

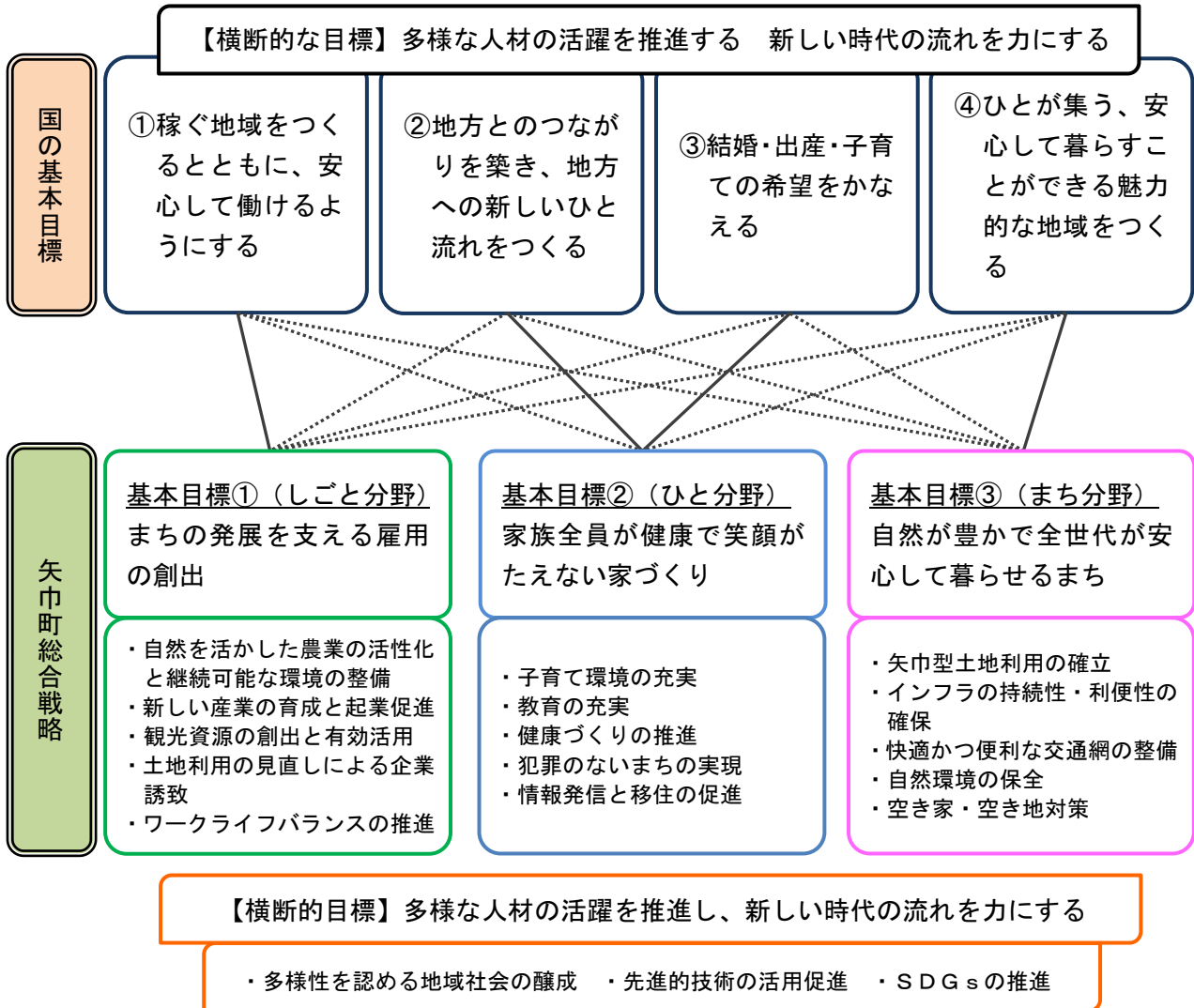
として定めています。

3 矢巾町まち・ひと・しごと創生総合戦略の計画期間

本戦略は、計画期間を令和2年（2020年）度から令和5年（2023年）度の4箇年とします。

4 矢巾町まち・ひと・しごと創生総合戦略の体系

本戦略は、「第7次矢巾町総合計画」及び「矢巾町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」等を踏まえ、国の「まち・ひと・しごとの創生に向けた基本目標」に対応したものであり、「矢巾町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」で示す将来展望を実現するために、以下に示す戦略体系を構築しています。



5 矢巾町まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定・推進体制

本戦略は、平成30年度に実施したまちづくり住民アンケート及び令和元年度に実施したまちづくり住民ワークショップの結果をもとに、第7次矢巾町総合計画後期基本計画の内容を踏まえつつ矢巾町当局において草案を作成し、住民及び産学官金労言士で構成される有識者会議「矢巾町まち・ひと・しごと創生懇談会」の意見を参考として策定を行いました。

本戦略では、計画最終年である令和6年（2024年）度において基本目標が達成されているかを計るためのツールとして重要目標達成指標（KGI）を、施策の進捗状況を適切に評価するツールとして重要業績評価指標（KPI）を、それぞれ設定しました。

本戦略の策定後は、町当局で施策の効果を検証し、改善を行う仕組み（PDCAサイクル）に基づく見直しを重要業績評価指標（KPI）に基づき実施します。また、毎年一回を目途に有識者の意見を踏まえつつ総合戦略の検証・見直しを行うものとします。

Ⅱ. 政策分野別戦略の展開

1 まち分野における戦略の展開

基本目標① 自然が豊かで全世代が安心して暮らせるまち

1) 基本的方向

都市、農村、自然のバランスの取れた土地利用が本町のまちづくりの特色であり、福祉の増進と自然環境の保全を基調に、地域の自然的・社会的・経済的及び文化的条件に配慮し、快適な生活環境の確保と町勢の発展を図ります。

また、県内でも高い整備率を誇るインフラを将来にわたり持続可能なものとするほか、町内の交通ネットワークを確立し、誰もが快適かつ便利な交通手段を得ること、さらには今後増加すると予想される空き家対策を推進することで、安心して暮らせるまちづくりを推進します。

まちづくりアンケート調査（平成30年）においても、本町に住み続けたい理由として「自然環境がよい」「買い物が便利」「下水道や道路など、都市施設が整っている」等が上位の回答となっており“都市的な環境にありながらも良い自然環境であること”が評価されていることから、本町の特長を生かして継続的な発展につなげていくことが重要と考えます。

そのために、次の5つの重点施策に基づき取り組みを展開します。

【重点施策】

(1)	矢巾型土地利用の確立
(2)	インフラの持続性・利便性の確保
(3)	快適かつ便利な交通網の整備
(4)	自然環境の整備
(5)	空き家・空き地対策

【重要目標達成指標（KGI）】

数値目標	基準値 (令和元年度)	目標値（KGI） (令和5年度)	備考
これからも矢巾町に住み続けたいと考える町民の割合	83.5%	85.0%	最終値

2) 施策の方向

(1) 矢巾型土地利用の確立

【現状と課題】

◎国道 4 号盛岡南道路が将来町内へ延伸される見通しであり、それに伴い交流人口のさらなる増加が予想されることから、延伸ルートに合わせた将来的な土地利用のあり方を検討する必要があります。

◎町内にはいくつかの大規模な公有財産があり、その利活用が課題となっています。

◎町内には旧村の中心地や観光資源を有する地区、市街化区域の隣接地域など、開発に対するニーズが強いにもかかわらず、市街化調整区域にあるため実現できないエリアがあり、その開発を可能とすることが求められています。

【施策】

①土地利用計画の見直し

国道 4 号盛岡南道路の計画をベースに、総合計画とともに関連する土地利用関係の計画を見直し、スマート IC 周辺開発や道の駅の位置づけと、今後の町の将来像の明確化を図ります。

【重要業績評価指標 (KPI)】

数値目標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和 5 年度)	備考
国土利用計画・都市計画マスタープラン・農業振興地域整備計画の見直しの実施	—	達成	—

②大規模公有財産の利活用等の推進

室岡地域の大規模町有地及び矢巾中学校跡地について、岩手医科大学附属病院の開院等による交流人口の増加など今後の状況を踏まえながら利活用等を検討します。

【重要業績評価指標 (KPI)】

数値目標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和 5 年度)	備考
室岡地域の大規模町有地及び矢巾中学校跡地の利活用方針の決定	0 件	2 件	累積値

③市街化調整区域での適正な土地利用の推進

市街化調整区域の土地について、町民の意向を把握し民間活力を導入しながら、地区計画制度も活用しつつ適切な利活用を推進します。

【重要業績評価指標 (KPI)】

数値目標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和 5 年度)	備考
市街化調整区域における地区計画の設定地区数	0 地区	3 地区	累積値

(2) インフラの持続性・利便性の確保

【現状と課題】

◎下水道管路施設の老朽化が進んでおり、有収率の低下がみられます。また集落排水処理施設の老朽化が進み処理能力の低下がみられることから、雨天時等流入水量が多いときに、対応できない可能性があります。

◎技術革新やライフスタイルの多様化などによって、情報の嗜好や情報源の多様化が進む中、情報インフラの利便性を確保する観点から、町が発信する情報をより多くの方に確実に届けつつ、幅広い意見聴取を行っていくため、広報・広聴手段の技術革新への対応に努めていく必要があります。

【施策】

①下水道施設の適切な維持管理と再構築の推進

管路施設のストックマネジメント計画を策定し、計画的な維持管理を進めます。
また、農業集落排水施設の公共下水道への接続を進め、合理的な方法で再構築を行います。

【重要業績評価指標（KPI）】

数値目標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和5年度)	備考
管路施設のストックマネジメント計画策定	—	達成	

②先進技術を活用した広報活動の推進

情報分野におけるAIやIoTなどの先進的技術の動向を注視しつつ、さまざまなメディアを活用しながら、より効果的、効率的な広報広聴活動の改善に努めます。

【重要業績評価指標（KPI）】

数値目標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和5年度)	備考
広報分野の先進技術を学ぶ研修会等への職員派遣延べ人数	0人	5人	累積値

(3) 快適かつ便利な交通網の整備

【現状と課題】

◎市街地を中心に町内の交通量が全般的に増加していることから、改良や改修が必要な道路に対して適切な整備を進めていく必要があります。

◎旧コミュニティバス「さわやか号」の廃止や岩手医科大学附属病院の開院、免許返納者の増加などを背景に、公共交通の充実を望む声が高まっています。一方、民間交通事業者も運転手の高齢化や不足など状況が厳しくなっており、地域の公共交通サービスが低下しつつあります。

【施策】

①道路や橋梁の計画的整備改修

町内の主要道路や生活道路、歩道、橋梁などについて、交通量や地域の要望を踏まえつつ、緊急性や必要性を考慮し、渋滞緩和・解消に向けて計画的に整備や改修等を促進します。

【重要業績評価指標（KPI）】

数値目標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和5年度)	備考
道路整備進捗率	40.3%	41%	最終値

②適切な公共交通網の形成

高齢者や免許返納者等の支援として、循環型コミュニティバスやデマンド型交通など公共交通の充実を図り、交通弱者へのきめ細かい対応を推進します。

【重要業績評価指標（KPI）】

数値目標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和5年度)	備考
デマンド型交通の1箇月あたり平均利用人数	29.4人	100人	平均値

(4) 自然環境の整備

【現状と課題】

◎町内に広がる豊かな田園風景は本町を象徴する景観の一つであり、これからも維持し続けていく必要があります。

◎台風や大雨などの水害から町民の生命と財産を守るため、河川の計画的整備が必要とされています。

【施策】

①豊かな田園風景の保全

農業者団体や地域住民、ボランティアの方々の協力を得ながら、田園風景の保全に努めます。

【重要業績評価指標（KPI）】

数値目標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和5年度)	備考
多面的機能支払交付金対象件数	29 組織	29 組織	最終値

①河川の計画的整備

河川改修を計画的に進めるとともに、危険性の高い北上川の無堤防区間の解消について整備促進を関係機関に要望します。

また、河川の浚渫や雑物除去など、地域住民の協力を得ながら適切な維持管理を継続します。

【重要業績評価指標（KPI）】

数値目標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和5年度)	備考
基幹河川整備進捗率	77%	88%	最終値

(5) 空き家・空き地対策

【現状と課題】

◎町内の空き家が今後さらに増加すると見込まれることから、利活用促進や管理不全の空き家の解消を図っていく必要があります。

【施策】

①空き家対策の推進

町内の空き家の実態把握に努めるとともに、空き家所有者等に対して、適切な情報の周知に努め、所有者等による適切な管理と空き家バンクを通じた利活用を推進します。

また、倒壊等の危険がある空き家については、対応を検討します。

【重要業績評価指標（KPI）】

数値目標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和5年度)	備考
空き家解消数	0 戸	5 戸	累積値

2 ひと分野における戦略の展開

基本目標② 家族全員が健康で笑顔がたえない家庭づくり

1) 基本的方向

盛岡市に隣接する本町は、買い物環境や道路整備が充実しているほか、医療機関が充実しており、今後は岩手医科大学附属病院の移転完了に伴い、さらなる発展が期待されています。また、保育園及び認定こども園等が町内に計 11 施設あり、小中学校も含めて、子育て環境の充実が強みとなっています。さらに自然が豊かで災害に強いなど、多くの点で恵まれた環境にあります。

近年の人口は、県内全体が減少傾向にある中でほぼ横ばいに推移していますが、地域のつながりやコミュニティの弱体化が進んでおり、隣に誰が住んでいるか分からないという状況もみられます。また、盛岡のベッドタウンというイメージで捉えられることが多く、矢巾町としての魅力・特色がまだ強く打ち出せていない状況です。

国立社会保障・人口問題研究所の推計によれば、矢巾町の人口は現状維持から減少に転じると見込まれており、特に年少人口（0歳～14歳）は平成27年（2015年）の約3万6千人から令和27年（2045年）には約2万5千人へと現状の7割程度にまで減少するおそれがあります。一方、交流人口は引き続き増加傾向が続くと予想されますが、交流人口の増加に伴い犯罪が増えるなどの弊害が危惧されるところです。また、地域コミュニティの衰退がより一層進むことも懸念されます。

本町の人口減少対策においては、家庭が一番の基礎となるものと位置づけ、家族全員が健康で笑顔が絶えない家庭づくりを目指し、町の住みやすさや暮らしやすさを発信していくことが、コミュニティの再生や人口増加につながるものと考えます。

そのために、次の5つの重点施策に基づき取り組みを展開します。

【重点方針】

(1)	子育て環境の充実
(2)	教育の充実
(3)	健康づくりの推進
(4)	犯罪のないまちの実現
(5)	情報発信と移住の促進

【重要目標達成指標（KGI）】

数値目標	基準値 (令和元年度)	目標値（KGI） (令和5年度)	備考
住民基本台帳人口	27,273人	30,000人	最終値

2) 施策の方向

(1) 子育て環境の充実

【現状と課題】

◎社会状況の変化により、核家族化が進み、共働き世帯も増加しております。これに伴い、家族形態が多様化し、保護者のニーズに対応した子育て支援が必要となっています。

そのため、適切な教育・保育サービスの提供体制の確立、相談機能の充実、子育て支援ネットワークの形成、子育てに関する情報提供などの支援体制を充実することが求められています。

◎急速に進む少子高齢化や情報化、価値観の多様化などによる青少年のコミュニケーション能力の低下が懸念されており、学校と地域が連携した環境での人づくりの重要性が高まっています。

【施策】

①子ども・子育て支援の充実

関係機関のネットワーク連携により、地域全体で子育てを支援する体制を強化し、妊娠期から子育て期全般に渡る切れ目のない支援を強化します。さらに、子育て支援情報の提供を充実させ、子育てにやさしい地域づくりを推進します。

【重要業績評価指標（KPI）】

数値目標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和5年度)	備考
子ども・子育て支援に対する満足度	40.9%	50%	最終値

②児童虐待防止体制の充実

関係機関との連携を強化し、専門職員等の配置により安心して相談できる体制を整備します。

また、児童虐待防止に関わる知識の普及啓発に努め、こども自身が自らSOSが出せるような環境づくりに努めます。

【重要業績評価指標（KPI）】

数値目標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和5年度)	備考
子ども家庭総合支援拠点の新規設置	0箇所	1箇所	最終値

③青少年の健全育成

教育振興運動、コミュニティスクールなどを通して学校と地域の連携体制を確立するとともに、地域の人材を活用し、地域社会全体の教育力の向上を図りながら、青少年の健全育成に努めます。

【重要業績評価指標（KPI）】

数値目標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和5年度)	備考
教育振興運動の実践活動地域数	42地区	42地区	最終値

(2) 教育の充実

【現状と課題】

◎学習指導要領に基づき、知・徳・体のバランスを重視した教育を推進していくことが必要です。さらに、調査や検査等からわかった児童生徒の課題の解決に努力します。

◎さまざまな支援を必要とする児童生徒に対して、適切な指導を行うことができる体制を確保していくことが求められています。

◎学校や共同調理場の老朽化が進んでいることから、改修や設備更新が必要となっています。また、学校については将来を見据え、建て替えや統廃合による施設整備を検討する必要があります。

【施策】

①知・徳・体のバランスを重視した教育の推進

人格や生命を尊重して行動できる児童生徒、進んで学習に取り組む児童生徒、健やかな体をつくる児童生徒を育むとともに、学力向上に努めます。

【重要業績評価指標（KPI）】

数値目標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和5年度)	備考
意欲を持って自ら進んで学ぼうとする児童生徒の割合	81%	83%	最終値

②適応支援及び特別支援の充実

学校適応支援員及び特別支援教育支援員を継続的に配置し、児童・生徒の一人ひとりの状況に応じた指導の充実が図られる教育体制を確保します。

【重要業績評価指標（KPI）】

数値目標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和5年度)	備考
学校適応支援員及び特別支援教育支援員の配置数	15人	18人	最終値

③計画的な施設更新整備

少子高齢化時代に適応した教育施設のあり方について検討を行うとともに、小中学校の規模の適正化や教育環境の整備などを推進します。

【重要業績評価指標（KPI）】

数値目標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和5年度)	備考
公共施設等総合管理計画に基づく教育施設の事業執行率	—	80%	最終値

(3) 健康づくりの推進

【現状と課題】

◎町内の医療体制は、岩手医科大学附属病院が開院したことを始め、医療機関が充足しており、恵まれた環境にあると言えます。今後は地域医療や健康づくり、並びに高齢者等への福祉サービスの充実と関係機関との連携を図る必要があります。

◎生涯を通じた健康づくりの基礎として、自らの健康状態を把握し、早期発見、治療するためにも健診を受けることが重要であり、特定健診及び各種成人検診の受診率を高めることが課題となっています。

◎核家族化、少子高齢化、転入出の増加などを要因として、コミュニティの希薄化が進んでいる中、地域で生活する高齢者、障がい者の増加に伴い、見守りや支援を必要とする方が増えています。地域との関わりが少ない独居者も増加しており、孤独死の問題は、都市部に限った問題ではなくなりつつあります。このような状況の中、さまざまな先進技術も活用しながら現代型のコミュニティを再構築して行く必要があります。

【施策】

①安心して医療が受けられる環境づくり

医療体制の充実を図る観点から、町内の医療・福祉機関等と連携した新たな取り組みを検討します。

また、矢巾町独自の地域医療環境を活用し、大学と連携した健康増進講座等の町民が主体的に学習できる機会を提供します。

【重要業績評価指標（KPI）】

数値目標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和5年度)	備考
健康増進講座参加者数	500人	700人	最終値

②生涯を通じた健康づくりの推進

生涯を通じた健康づくりの推進に向け、対象となるすべての町民が必要な健診（検診）を安心して受診できる体制づくりを一層強化します。

【重要業績評価指標（KPI）】

数値目標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和5年度)	備考
特定健康診査受診率	52%	70%	最終値

③地域福祉づくりの推進

地域の持つ力と民間の協力事業者の力を組み合わせた見守りネットワークを構築し、異変を察知した場合には、速やかに支援につなげられるような体制を整備します。

また、既存の建物や枠組みを活用し、誰もが地域と関わりを持てるような居場所づくりを進めます。

【重要業績評価指標（KPI）】

数値目標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和5年度)	備考
地域支援体制拠点の設置数	19箇所	41箇所	最終値

(4) 犯罪のないまちの実現

【現状と課題】

◎これまで取り組んできた防犯体制の強化や防犯活動の支援を継続するとともに、交流人口が増加傾向にあることから、防犯対策のさらなる強化を図る必要があります。

◎全行政区にコミュニティが設けられ、さまざまな交流事業などが活発に行われていますが、多くのコミュニティ組織では担い手の不足や事業量の増大による負担の増加が問題となっています。また、今後の社会の急速な発展や少子高齢化等による人口減少、ライフスタイルのさらなる多様化などによって、地域の中で様々な人が集まって交流できる場の設定が次第に困難になっていくことが予想されますので、今後のコミュニティのあり方を考えていく必要があります。

【施策】

①防犯対策の充実

防犯分野における自助・共助を強化するため、住民主体の防犯活動の推進、支援を積極的に図ります。

今後見込まれる交流人口の増加に対応するため、警察や各防犯関係団体との連携を強化し、犯罪の発生を防ぐとともに、町内から特殊詐欺被害やインターネット犯罪に遭わないようにするための方策の情報提供や周知を徹底し、未然防止対策の強化を図ります。

【重要業績評価指標（KPI）】

数値目標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和5年度)	備考
刑法犯認知件数	64件	50件	最終値

②コミュニティのあり方の見直し

町からの委託事業等が各コミュニティ組織に過度の負担とならないよう、町とコミュニティ組織のあり方を見直し、適切なパートナーシップの構築に努めます。

また、町民の日常的な交流や支え合いなどの地域コミュニティの機能を将来にわたって維持し続けるため、各コミュニティ組織の協力を得ながら今後の望ましいコミュニティのあり方について検討します。

【重要業績評価指標（KPI）】

数値目標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和5年度)	備考
コミュニティワークショップ実施地区数	5地区	21地区	累積値

(5) 情報発信と移住の促進

【現状と課題】

◎インターネットによる PR 活動やふるさと納税などを通じて、本町の全国的な知名度が徐々に高まっていることから、今後もさらなる情報発信の強化に努め、関係人口の増加や経済活性化などにつなげていく必要があります。

◎町の人口はまだ減少傾向にありませんが、今後人口 3 万人の実現を早期に目指していくために、引き続き定住人口の増加を図っていく必要があります。

【施策】

①町内外に向けた情報発信の強化

町の様子や魅力などを町内外に向け積極的に情報発信し、観光客や移住者の増加、関係人口の創出などにつなげます。

【重要業績評価指標（KPI）】

数値目標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和5年度)	備考
町公式 SNS による情報発信件数	164 回	300 回	平均値

②移住促進と関係人口拡大

町外からの転入者の増加に引き続き努めます。また、観光や物販等を通じて本町と関係性を有する町外の人を関係人口と位置付け、より良好な関係を継続的に構築できるよう努めます。

【重要業績評価指標（KPI）】

数値目標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和5年度)	備考
人口動態における社会増の人数	56 人	650 人	平均値

3 しごと分野における戦略の展開

基本目標③ まちの発展を支える雇用の創出

(1) 基本的方向

本町は、県庁所在地であり大消費地である盛岡市に隣接し、コンパクトな町域の中に国道4号や東北縦貫自動車道、JR東北本線などの交通基盤や上下水道などのインフラが整備されているなどの強みを持っています。さらに、南昌山、城内山など豊かな自然に恵まれ、矢巾温泉や国指定史跡徳丹城跡などの観光資源も有しており、岩手医科大学附属病院の移転に伴う交流人口の拡大など、多くの発展可能性を有しています。

本町の商業は、矢幅駅東地区から国道4号沿線に商業集積がされていますが、一方で盛岡市近郊の大型商業施設への購買流出と合わせて、町内小売業への影響が懸念されるどころです。また、町内の公共交通網に不十分な部分があること、また全国的に知名度が高い農産物や特産品を開発・流通できていないことなどが課題となっています。

本町において雇用の創出を図るためには、農業や観光の活性化を推進するとともに、恵まれたインフラや盛岡市に隣接しているという立地条件を活かした企業誘致や起業促進にも積極的に取り組む必要があります。また、これらの産業を支える労働力を確保するため、住民が安心して働ける環境を整えることも求められています。

そのために、次の5つの重点施策に基づき取り組みを展開します。

【重点施策】

(1)	自然を活かした農業の活性化と継続可能な環境の整備
(2)	新しい産業の育成と起業促進
(3)	観光資源の創出と有効活用
(4)	土地利用の見直しによる企業誘致
(5)	安心して働ける環境の整備

【重要目標達成指標 (KGI)】

数値目標	基準値 (令和元年度)	目標値 (KGI) (令和5年度)	備考
町内事業所の従業者数合計	15,351人	16,000人	最終値

2) 施策の方向

(1) 自然を活かした農業の活性化と継続可能な環境の整備

【現状と課題】

◎就農者が減少傾向にある中で、農地保全や担い手の確保、育成など多角的な視点から、本町の基幹産業である農業を守り育てていく必要があります。

◎町外で広く認知されている特産品がまだ少ないことから、新たな特産品の開発を促進し、PRの強化を図る必要があります。

◎農業者年金加入者が伸び悩んでおり、加入の促進が課題となっています。

◎集落営農組織を中心として農地集積が進んでいますが、担い手間の連携が図られていない等の理由により、面的な農地集約が十分に進んでいない状況にあります。また、認定農業者など個人担い手への集積・集約についてもさらに推進していく必要があります。

【施策】

①経営近代化の推進

集落営農組織の法人化を推進するとともに、農業生産力及び農業所得の向上を図り、経営近代化を推進します。

【重要業績評価指標（KPI）】

数値目標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和5年度)	備考
集落営農組織法人化件数	9件	11件	累積値

②農業従事者と後継者の確保

青年就農給付金をはじめとする各種制度を活用し、新規就農者の確保に努めます。

また、知識及び技術の習得による資質の向上を図りつつ、農畜産物の高付加価値化による就農意欲の高揚を図り、所得向上を目指す農業者を支援します。

【重要業績評価指標（KPI）】

数値目標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和5年度)	備考
新規就農者数	2人	10人	累積値

③農業を活かした交流

農業の人と人を繋ぐ役割に着目し、若手農業者の嫁婿対策としての婚活イベントや、農業体験イベントなどを通じて農村地域と住宅地域、農村部と都市部の人の交流を推進し、農業に対する理解や関心を深めてもらうよう努めます。

【重要業績評価指標（KPI）】

数値目標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和5年度)	備考
農業体験イベント参加者数	0人	50人	累積値

④特産品の開発支援

本町の魅力を県内外にPRするため、民間事業者等と連携しながら新たな特産品の開発を支援するとともに販路拡大を図ります。

また、町産農畜産物の良さに関する情報発信を強化し、矢巾ブランドの確立を目指します。

【重要業績評価指標（KPI）】

数値目標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和5年度)	備考
特産品開発件数	0件	8件	累積値

⑤農業者年金の普及

若年層の農業者年金加入者の増加を図ります。

【重要業績評価指標（KPI）】

数値目標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和5年度)	備考
農業者年金加入者数	23人	30人	累積値

⑥農地等の利用の最適化の推進

人・農地プランを基にして、地域の担い手間の連携を強化します。

【重要業績評価指標（KPI）】

数値目標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和5年度)	備考
農地最適化活動日数	230日	250日	平均値

(2) 新しい産業の育成と起業促進

【現状と課題】

◎本町には北東北の流通拠点として重要な役割を担う岩手流通センターをはじめ、多くの企業や事業者が集積しています。これらの企業等そして盛岡公共職業安定所と連携しながら、町内における雇用の確保を積極的に進めており、地元就労の場の創出に力を入れる必要があります。

◎長らく町の経済を支えてきた中小企業が、近隣の大型商業施設等への顧客流出などの問題により弱体化の傾向にあります。

【施策】

①雇用創出の推進

土地利用と連携した企業誘致や、企業間連携による産業振興、農商工連携、ベンチャー企業やヘルスケアビジネスなどの新しい企業形態による起業支援を進め、働き方改革や職場環境の改善に伴う支援を行い、雇用の拡大と創出につなげる取り組みを推進します。

【重要業績評価指標（KPI）】

数値目標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和5年度)	備考
立地企業の雇用者数	1,700人	4,500人	最終値

②産学官連携の推進

意欲ある町内事業者と教育・研究機関等による、本町の特色を生かした商品開発等を支援します。

【重要業績評価指標（KPI）】

数値目標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和5年度)	備考
産学官連携会議開催件数	1回	2回	最終値

③中小企業の保護と育成

中小企業の育成や発展を促すため中小企業基本条例を制定し、地域の雇用と経済を支える中小企業の活性化を支援します。

【重要業績評価指標（KPI）】

数値目標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和5年度)	備考
中小企業基本条例の制定	—	達成	

(3) 観光資源の創出と有効活用

【現状と課題】

◎煙山ひまわりパークのほか、城内山、南昌山等自然景観を生かした地域の活性化を求める声が多くあり、東部地区の開発と併せて西部地区の開発について検討が必要とされています。

◎2.8haに40万本のひまわりが咲く煙山ひまわりパークは、大規模な駐車場整備を行い令和元年度は年間25,000人を超える来場者がありましたが、経済効果に結びついていないため、その検討が必要とされています。

◎国指定史跡徳丹城跡については、近年の調査研究でその実態や歴史的価値が次第に明らかになってきており、町内外に向けてその魅力の発信を強化することが求められています。

◎岩手医科大学の移転等により本町が勢いのある町として注目され、全国的にもふるさと納税やローカルブランディングの取り組み等を通じて認知度の向上が進んでいる中、さらなる観光振興を図ることが求められています。

【施策】

①煙山ひまわりパークの活用促進

煙山ひまわりパークを会場とした新たなイベントの開催や出店コーナーの設置、周辺施設と連動した観光キャンペーンなど、新たな人を呼び込みつつ経済効果を高める活用策を検討します。

【重要業績評価指標（KPI）】

数値目標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和5年度)	備考
煙山ひまわりパークにおける年間出店者数	0件	20件	

②西部地区の活性化

町のシンボルである南昌山麓に広がる煙山ひまわりパークや矢巾温泉、城内山、稲荷街道松並木、町営キャンプ場などの自然豊かな観光スポットを連携し、エリア全体としての魅力を発信しながら、人を呼び込む地域づくりを進めます。

【重要業績評価指標（KPI）】

数値目標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和5年度)	備考
西部地区観光施設の来場者数	100,000人	130,000人	最終値

③道の駅の検討

東部と西部の観光エリアを繋ぐ導線としての機能も考慮しつつ、観光拠点として道の駅の設置を検討します。

【重要業績評価指標（KPI）】

数値目標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和5年度)	備考
道の駅の設置にかかる方針の決定	—	達成	

④国指定史跡徳丹城跡の魅力発信

国指定史跡徳丹城跡の調査研究を継続するとともに、その成果も踏まえて、史跡を活用した再現事業などを展開します。

また、歴史的価値を生かして観光拠点や憩いの場としての活用を進めます。

【重要業績評価指標（KPI）】

数値目標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和5年度)	備考
徳丹城跡に関するイベントの参加者数	300人	900人	最終値

(4) 土地利用の見直しによる企業誘致

【現状と課題】

◎町内には旧村の中心地や観光資源を有する地区、市街化区域の隣接地域など、開発に対するニーズが強いにもかかわらず、市街化調整区域にあるため実現できないエリアがあり、その開発を可能とすることが求められています。

◎町内経済のさらなる活性化を促すため、新たな企業等を町内に積極的に誘致する必要があります。

【施策】

①市街化調整区域での適正な土地利用の推進

市街化調整区域の土地について、町民の意向を把握し民間活力を導入しながら適切な利活用を推進します。

【重要業績評価指標（KPI）】

数値目標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和5年度)	備考
市街化調整区域における地区計画の設定 地区数	0 地区	3 地区	累積値

②企業誘致のさらなる推進

企業誘致向けの土地を確保し、新たな誘致活動等を推進します。

【重要業績評価指標（KPI）】

数値目標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和5年度)	備考
誘致企業数	0 件	6 件	

(5) 安心して働ける環境の整備

【現状と課題】

◎町内には子育て上の理由から就業していない女性も多いと考えられることから、出産後も働きたいと考えている女性が安心して働くことができるよう、企業等への周知啓発や働きかけを行うとともに、男性の家事や育児への積極的参加を促すことや、育児や介護などにおける共働き世帯への支援など、労働環境の整備を進めることが求められています。

◎田園都市やはば第2次男女共同参画プランに基づき、男女共同参画の啓発や女性の社会参画の推進を行っていますが、現在においても根強い固定的性別役割分担や地域活動における性別や年代の偏りがあり、その解消を図ることが求められています。

◎岩手県内では、より給与等の条件の良い県中部地域への労働力の流出が問題となっています。町民の多くは周辺市町の企業等に勤務していますが、労働力の流出は町民の流出につながることから、盛岡広域通勤圏内の働く場所の確保と雇用の維持が求められています。

◎新規学卒就職者の離職率が非常に高く、新規高卒で約4割、新規大卒で約3割が就職後3年以内に離職しています。その原因は様々ですが、就職活動時の調査不足だけではなく、進路選択に起因するものも大きな原因の一つであることから、小学校高学年から中学生にかけての時期に様々な職業についての知識を得ることが重要です。

【施策】

①子育て関係機関との連携

子育て関係機関と企業との連携を図り、子育て世代がより安心して働きながら子育てを行うことができる環境整備に努めます。

【重要業績評価指標（KPI）】

数値目標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和5年度)	備考
ファミリー・サポート・センターの新規設置	0箇所	1箇所	最終値

②子育てや介護等に協力する企業への支援

従業員の子育てや介護等に協力する企業への支援や、子育てや介護支援制度が充実した企業を紹介するなどして、働きながら子育てや介護がしやすい環境の整備を図ります。

【重要業績評価指標（KPI）】

数値目標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和5年度)	備考
子育て支援・介護等に協力的な企業リストの登録件数	0件	10件	累積値

③男女共同参画の推進

男女共同参画に関する周知を強化し、地域社会全体での意識改革を促進します。

【重要業績評価指標（KPI）】

数値目標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和5年度)	備考
男女共同参画サポーター養成者数	21人	27人	累積値

④就業の支援

盛岡広域全体で働く場所と雇用の確保に努め、Uターン・Iターン・Jターン者への就業支援を強化するとともに、新卒者・転職者の他地域への流出防止を図ります。

【重要業績評価指標（KPI）】

数値目標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和5年度)	備考
就労希望者への情報提供実施回数	0回	3回	最終値

⑤地元就職の促進

職業選択に資する情報提供と体験の機会の提供を推進する企業を支援するとともに、雇用のミスマッチ解消に向けてより様々な職種の就業体験の場を設けるため、盛岡広域8市町が連携して高校生インターンシップ事業に取り組み、地元雇用と地元就職を促進します。

また小中学生を対象に仕事について学ぶ機会を設け、進路選択前に職業に対する意識を高める取り組みを推進します。

【重要業績評価指標（KPI）】

数値目標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和5年度)	備考
小中学生向け事業実施参加人数	20人	30人	最終値

4 横断的な戦略の展開

【横断的目標】 多様な人材の活躍を推進し、新しい時代の流れを力にする

(1) 現況と課題・基本的方向

地方創生の取り組みの継続・発展を図り、活気あふれる地域をつくるためには、ダイバーシティ（多様性）の観点から、若者や高齢者、女性、障がい者、外国人など、地域のさまざまな担い手が積極的に参画し、多様な人材が活躍できる環境づくりを進める必要があります。

また、Society 5.0[※]の実現に向けたさまざまな先進的技術は、地方における人手不足や地理的・時間的制約を克服し、地域における産業の発展や生活の利便性向上、コミュニティの活性化などの課題を解決し、地域の魅力を高める有効な手段の一つと期待されています。

併せて、国連の提唱する持続可能な開発目標（SDGs）は、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現を目指して、経済・社会・環境を巡る広範な課題解決に統合的に取り組むものであることから、SDGs の理念に沿って地方創生の取り組みを推進することにより、世界的な社会の持続性の確保に資するとともに、国をはじめさまざまな企業や民間団体等との相乗効果で地域課題解決を加速し、取り組みの一層の充実・深化を図ることが求められています。

そのために、次の重点施策に基づき取り組みを展開します。

【重点施策】

(1)	多様性を認める地域社会の醸成
(2)	先進的技術の活用促進
(3)	SDGs の推進

※Society（ソサエティ）5.0…サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会のあり方

(1) 多様性を認める地域社会の醸成

【施策】

①ダイバーシティ（多様性）に関する周知啓発の推進

多様性を認める社会について理解を促進するための周知啓発を推進します。

【重要業績評価指標（KPI）】

数値目標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和5年度)	備考
ダイバーシティに関する取り組みに対する町民の認知度	—	60%	最終値

②まちづくりサポーター制度の創設

若者や高齢者、女性、障がい者、外国人など地域のさまざまな人が積極的にまちの活性化のために参画し活躍できる仕組みとして、まちづくりサポーター制度を創設します。

【重要業績評価指標（KPI）】

数値目標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和5年度)	備考
まちづくりサポーター登録者数	0人	30人	累積値

(2) 先進的技術の活用促進

【施策】

①先進的技術を活用したまちづくりの推進

AI（人工知能）やビッグデータの活用など先進的技術を取り入れたまちづくりを推進します。

【重要業績評価指標（KPI）】

数値目標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和5年度)	備考
先進的技術を活用した課題解決の取り組み件数	0件	2件	累積値

②情報化社会の進化に対応した業務効率化と住民サービス向上

技術の進歩状況を注視しながら、AI（人工知能）を活用した業務の改善や、各種手続きの電子化、窓口対応の利便性改善など住民サービスの質の向上に努めます。

【重要業績評価指標（KPI）】

数値目標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和5年度)	備考
電子化により業務効率化を行った事務件数	0件	5件	累積値

(3) SDGsの推進

【施策】

①SDGsに関する周知啓発

SDGsについて理解を促進するための周知啓発を推進します。

【重要業績評価指標（KPI）】

数値目標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和5年度)	備考
SDGsに関する町民の認知度	—	60%	最終値

【施策】

②SDGsの計画的な推進

町の実施する施策において、SDGsの考え方を取り入れた事業を計画的に推進します。

【重要業績評価指標（KPI）】

数値目標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和5年度)	備考
SDGsの推進に資する事業の実施数	0件	40件	累積値